

## 令和4年度在宅高齢者療養推進協議会検討部会の取り組み（報告）

## 連携の推進

- ① 連携ネットワークの充実  
 連携の強化を図る目的で勉強会やコアメンバーでの打ち合わせを実施  
 市立病院、地域包括支援センター、ケアマネージャーとの定期的な情報交換等

## 介護と医療の連携推進勉強会

日程	内容	参加人数
6月16日	薬剤師とケアマネージャーをつなぐ連携勉強会	53
11月15日	支援困難事例への対応	51
3月24日	(仮) ACPについて学びあう	

- ② MCSの普及啓発・活用検討  
 医療と介護の連携ツールであるMCSでの情報共有  
 MCSを使用しての患者グループについての試行 情報共有

コロナ禍でWEBの会議、勉強会が主流になっていたが、連携の第一歩は顔の見える関係の構築が必須、今後感染状況も注視しながら会場開催で顔の見える関係がつけられるように実施していく

1

## 周知 啓発

- ① 図書館での期間限定での在宅療養、介護、エンディングに関わるフェアの実施

令和3年度1か所→ 令和4年度4か所

- ② 地域での講座や相談会 ガイドブックやエンディングノートの活用

## 公民館と共催しての講座

日程	内容	講師	参加人数
9月10日	在宅療養支援講座 住み慣れたまちで安心して暮らすために	康明会病院長 平井 健医師	74 (現地・WEB)
10月22日	アドバンス・ケア・プランニングを学ぼう	一般社団法人アルデバラン 代表理事 宮本 芳恵氏	18
2月25日	自分らしく生きるために知っておこう！がんの在宅療養と緩和ケア	日野のぞみクリニック 望月 諭医師	

- ・作成した在宅療養動画を活用しての講座  
 地域の集い（サロンや老人会等） 5団体 延べ参加者数95名

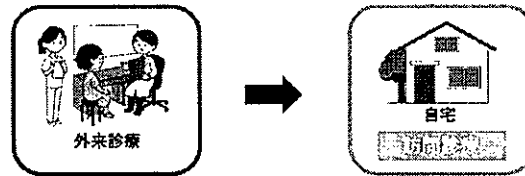
2

### ③ まちの在宅医療相談会・ミニ講座の実施

ミニ講座実施回数7回(予定) 延べ参加者数 38人



外来診療から訪問診療に移行するタイミング



生活や通院のしづらさを感じた時

講座等の実施後アンケートや参加者の声からあがってきた課題として独居の高齢者の在宅療養及び、参加者は70~80歳代の方が多かったが、あらかじめもしもの場合に備えて今後の医療や介護等について親しい方と話している(ACP:人生会議)人の割合が少なかった。  
→ 今後在宅療養の普及に合わせてACPについての取り組み(関係職種向け、市民向け)を実施

3

### ④ 第2弾の在宅療養の事例動画の制作 (年度末に完成予定)と活用

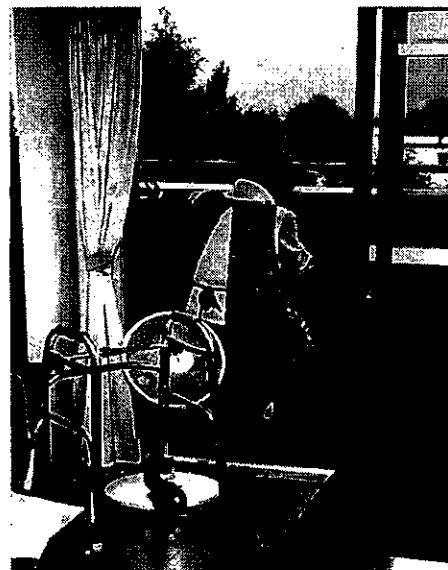
“住み慣れた地域で暮らし続けるための大事なこと” (仮称)

1作目は「在宅での看取り」であった。2作目は在宅で訪問診療等も入っているがサービス等も入れ、在宅でその方らしい暮らしを続けている事例を紹介し、在宅療養について自分事として考えるきっかけをつくる

#### 動画協力者

- ・ご本人(独居、90代)
- ・在宅診療医 : 日野のぞみクリニック  
望月医師
- ・ケアマネジャー : 葵居宅支援事業所

在宅療養の周知啓発については  
テーマもいくつかにわたり、方法も多様である  
引き続き在宅高齢者療養推進協議会検討部会  
で検討しながら実施していく



4